

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27 - 201	高等学校	地理歴史科	地理 A	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地 A - 308	高等学校 新地理 A 代表著作者 荒井良雄 ほか 8 名		

1 編修の趣旨及び留意点

▶ “新しい社会を生み出す創造力”の育成をめざして

現代の社会はグローバル化・情報化・少子高齢化など、さまざまな変化が急速に進んでおり、高校生が身につけるべき知識や教養も変化している。私たちは、高校生がこのような社会の変化を踏まえて学習できるよう意を注いだ。

そのうえで私たちは、今回の教科書の編修にあたって、これからの社会を担っていく高校生に対し、“新しい社会を生み出す創造力”を身につけ、主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと考えた。将来において、社会に対する安心感をいできながら平和な生活を持続していくためには、現代世界の特性を深く知り、その諸課題を解決する新しいしくみやモデルを構築する能力が不可欠である。そのための“創造力”を育成できるよう、とくに以下の方針を重視して本書を編修した。

本 書 の 編 修 方 針

① 現代世界が抱える諸課題の解決に向けて、主体的に取り組む態度を育成できる教科書

- ・現代世界が抱える諸課題について考察するにあたって、世界各地の生活・文化にどのような特色があり、それがどのように形成されてきたのかが理解できるよう内容構成を工夫した。
- ・現代世界の諸課題について、各地でみられる問題を空間的に捉えるとともに、諸課題ごとに具体的な地域事例を取りあげ、地域によって課題の現れ方が異なることが理解できるように内容構成を工夫した。
- ・環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題といった諸課題の解決には、各国の取り組みや国際協力が必要であることを示し、生徒自ら諸課題の解決策について考えをまとめられるよう配慮した。

▶ p.148～153「世界の環境問題」、p.154～157「世界の資源・エネルギー問題」など

- ・日本は豊かな自然に恵まれた国である一方で、さまざまな自然災害が多発する国でもあることを捉え、防災意識を高めるとともに、地域性を踏まえた取り組みが大切であることが理解できるようにした。

▶ p.178～197「日本の自然環境と防災」

② 思考力・判断力・表現力を育成できる教科書

- ・各単元のタイトル横の側注欄には、「リード」を設け、その単元の学習課題や考える視点を明確に示した。また、各単元のおわりには、「チェック」を設け、生徒が学習の要点を確認できるようにした。「チェック」は、自分の言葉で説明する内容を中心に構成し、思考力・判断力・表現力を育成できるよう配慮した。
- ・学習内容に合わせて、「技能をみがく」のコーナーを全 19 か所設け、地理的な見方・考え方や地理的スキルを身につけられるよう配慮した。

▶ p.7「時差の計算」、p.16「統計地図の見方とつくり方」、p.189「ハザードマップの見方」など

2 編修の基本方針

第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健康やかな身体を養うこと。

「幅広い知識と教養を身に付け」について、本書では、現代世界の特色や地球的課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めることと捉えた。

- ①現代世界の特色について、自然環境や社会環境と関連づけた丁寧な記述によって、世界各地に多様な生活・文化がみられることが理解できるようにした。その際、具体例を挙げながら可能な限り、その背景や因果関係までで記述することで、生徒が理解しやすいよう配慮した。
- ②日本の自然災害の特色とその自然災害とのかかわりについて、具体的な地域事例を取りあげることによって、人々が早くから自然災害への対応に取り組んできたこと、同じ災害に対しても地域によって対策が異なることなどが理解できるようにした。
- ③写真やグラフ、模式図などの視覚資料を数多く設け、さまざまな資料を活用しながら学習内容の理解を深められるよう配慮した。また、本文行間には写真や図表への参照記号を設け、本文と写真や図表との関連をはかりながら学習できるよう工夫した。
▶ p.5 ③緯線・経線と緯度・経度（模式図）、p.126 ②ミシシッピ川沿いの穀物倉庫と穀物運搬船（写真）、p.158 ②世界の人口の推移（グラフ）、p.190 ②さまざまな風水害（模式図） など
- ④本文中の記述について補足が必要な場合には側注で説明し、理解をより深められるよう配慮した。
- ⑤「クローズアップ」と「日本とのかかわり」のコラムを設け、学習に関連する事象について、より幅広い知識を身につけられるよう工夫した。
▶ p.29 「難民問題」（クローズアップ）、p.85 「経済的連携を深める ASEAN 諸国と日本」（日本とのかかわり）

「真理を求める態度を養い」について、本書では、自ら発見した疑問や課題を多面的・多角的な視野から考察する態度を養うことと捉えた。

- ①「第2部3章 身近な地域の課題と地域調査」では、調査テーマの設定方法や現地調査の手順、発表方法について具体的なレポートとともに提示し、生徒自らが地域の課題を発見し、真理を求める態度を養えるようにした。

「豊かな情操と道徳心を培う」について、本書では、世界各地の生活・文化とその背景を理解したうえで、多様な文化や、固有の価値を尊重する態度を養うことと捉えた。

- ①各地に暮らす人々の姿が見える本文や写真を多く取り扱い、人々の生活と自然環境や産業などの地理的事象とのかかわりが捉えられる内容構成にした。例えば、「1部2章2節 人々の生活と気候」では、「熱帯の気候と人々の生活」、「乾燥帯の気候と人々の生活」などの項目を設け、気候の特徴と、そこで暮らす人々の営みや生活上の工夫を重点的に描いた。
- ②世界各地の具体的な生活・文化などのようすを紹介するコラム「現地レポート」を、さまざまな単元の導入資料として掲載し、各地で暮らす人々の生活・文化の特色が捉えられるように配慮した。
▶ p.78 「多民族が行きかう街かど」、p.188 「鹿児島市に住む人の話」 など
- ③日本とは異なる世界の諸地域のさまざまな生活・文化や風習を紹介する「ところ変われば」を、世界の諸地域を学習する単元の各所に設け、異文化理解が深められるよう配慮した。

▶ p.97「イスラームの暦」、p.120「ロシアの別荘、ダーチャ」など

④世界各地で行った弊社独自取材の成果を本文や写真に生かし、その地域の臨場感を感じとれるよう工夫した。

第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

「創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」について、本書では、生徒が主体的に学習に取り組み、自分なりの意見や考えをもつ態度を養うことと捉えた。

- ①地理的技能を身につけるための「技能をみがく」では、作業課題の「トライ」や「作業」を各所に設け、主体的に学習に取り組めるようにした。
- ②各単元のはじめに設けた「リード」は、その単元の学習でおさえるべき課題を示し、生徒が課題を認識しながら学習に取り組むことができるようにした。また、各単元のおわりに設けた「チェック」は、生徒が学習の要点を確認したり、自分の言葉で説明したりする作業を中心に構成し、生徒が自分なりの考えをまとめ、表現する力を育成できるよう工夫した。
- ③さくいんを充実させ、調べたい語句を容易に探し出せるよう配慮した。また、他のページと関連する本文中の文章・語句については、行間にその参照先を示し、学習をより深められるよう配慮した。

「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う」について、本書では、世界の人々の生活や産業に触れ、各地で行われているさまざまな工夫への認識を深めることと捉えた。

- ①「1部 世界の諸地域の姿と地球的課題」を中心に、世界各地の人々の営みや暮らしがわかる写真を各所に配置した。また、各所に設けた「現地レポート」や「クローズアップ」などのコラムで、世界の人々の生活や産業のようすを具体的に取りあげた。
- ▶ p.113「国際分業で製造されるヨーロッパの航空機」（クローズアップ）、p.126「収穫請負人、コンバインクルー」（現地レポート）など

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる」について、本書では、異なる立場の相手を尊重し、ともに協力する態度を養うことと捉えた。

- ①「1部4章 地球的課題と私たち」では、環境問題や資源・エネルギー問題などの地球的課題は、地域を越えた課題であること、地域によって課題の現れ方が異なることなどを具体的な地域事例とともに示し、これらの課題の解決には相手の立場を尊重し、たがいに協力することが大切であることに気づかせるようにした。
- ▶ p.146～147「地球的課題の特性とその解決」など
- ②「2部2章 日本の自然環境と防災」では、災害時に公助・共助・自助の取り組みが大切であることを本文やコラム、写真などで丁寧に説明し、災害の被害を軽減するために協力し合う態度が養えるようにした。

「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」について、本書では、持続可能な社会の形成のために主体的に参画する態度を養うことと捉えた。

- ①「1部4章 地球的課題と私たち」では、諸課題の解決に向けた具体的な取り組みを紹介し、持続可能な社会を形成するために、生徒が主体的に解決策を考えて実践するなどの態度を養うことができるよう配慮した。

- ②「2部3章 身近な地域の課題と地域調査」では、身近な地域にはどのような課題があり、その課題に対してどのような解決方法が考えられるかについて、調査結果のまとめや発表の場で意見交換をする機会を設けた。

第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

「生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う」について、本書では、環境を保全することの重要性を理解し、環境保全に参加する態度と環境問題を解決する能力を養うことと捉えた。

- ①「1部2章 人間生活を取り巻く環境」での地形・気候の学習や、「1部3章 世界の諸地域の生活・文化」での自然環境の記述を重視し、自然条件が人々の生活の重要な要素の一つであることが理解できるよう配慮した。
▶ p.30～41「人々の生活と地形」、p.42～53「人々の生活と気候」、p.61「中国の自然環境」など
- ②「1部4章2節 世界の環境問題」の単元では、さまざまな環境問題について、原因や発生地域を示すだけでなく、解決への取り組みまで丁寧に取り扱い、環境を保全することの重要性を理解し、環境問題を解決するために必要なことが考察できるよう工夫した。例えば、熱帯林の破壊(p.150～151)については、解決への取り組みとして、住民をまじえた資源管理の取り組み、ODAやNGOの役割などを紹介した。

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」について、本書では、日本の伝統文化を尊重するとともに、日本人が長い歴史のなかで培ってきた勤勉さや協調性など、世界に誇るべき資質に気づき、我が国や郷土を愛する態度を養うことと捉えた。

- ①「1部3章 世界の諸地域の生活・文化」に設けたコラム「ところ変われば」では、各地の生活習慣や文化を日本と比較しながら学習することで、自ら属する日本の伝統と文化に対する愛着を感じさせ、我が国と郷土を愛する態度が養えるようにした。
- ②「1部1章1節 日本の領域と領土問題」では、日本の領土について、領域がわかる図や写真を用いて丁寧に解説し、領土をめぐる問題の平和的な解決方法を考えるための基礎・基本となる知識を習得できるようにした。

「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」について、多様な課題を抱える他国の立場への理解を深め、国際協力に積極的に寄与する態度を養うことと捉えた。

- ①「1部3章 世界の諸地域の生活・文化」に設けたコラム「日本とのかかわり」では、各地域と日本との経済的・文化的交流を紹介し、日本が世界各地と深く関わっていること、世界各地の発展のために日本が貢献していることなどについて記述し、理解がより深まるよう配慮した。
- ②「1部4章 地球的課題と私たち」では、世界が抱える諸課題を解決するために、日本と各国・地域がたがいに協力することの重要性を理解できるよう工夫した。

3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1部1章 地球儀や地図からとらえる現代世界	<ul style="list-style-type: none"> ●国と国との結びつきや地域的な枠組みについて、具体事例をもとに学習できるようにした。また、各単元において、グローバル化が進む世界のような多様な写真や地図、グラフなどで示すことで、生徒の理解が深まるよう配慮した。第1号 ●「技能をみがく」を各所に設け、読図や地図化など、地理学習を進めるうえでの基礎的・基本的な技能が身につけられるようにした。第1号 第2号 	p.18～29 p.7, 14～17, 20～21
1部2章 人間生活を取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の自然環境の基礎となる地形や気候について考察できるよう、大きな写真や模式図、図表を豊富に用いて構成した。また、地形や気候の成り立ちに加えて、人間生活とのかかわりも丁寧に記述し、自然環境が人間に与える影響の正の側面と負の側面の両面を理解できるように配慮した。第1号 第3号 ●世界各地の農業や工業、文化の特色と、それらが人々の生活とどのようにかかわっているかについて、丁寧に記述した。第1号 	p.30～53 p.42～53 p.54～59
1部3章 世界の諸地域の生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ●世界各地の自然環境を重視し、特色ある自然環境が多様な文化や産業の形成に深く関わっていることが理解できるように配慮した。第1号 第4号 ●コラム「日本とのかかわり」を各所に設け、各地域と日本がさまざまな面で関わっていることを紹介し、国際社会の平和と発展のために日本が貢献していることに気づかせるようにした。第5号 	p.61, 71, 77, 87, 93, 99, 105, 117, 123, 133, 141 p.60～145
1部4章 地球的課題と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ●生産や消費などの分布図やグラフを豊富に掲載し、先進国と発展途上国の違いなどの地域的差異を捉えられるようにした。第1号 ●環境問題や資源・エネルギー問題、食料問題など、現代世界が抱える課題について具体的な事例を取りあげ、持続可能な社会を形成するための態度を養えるよう配慮した。第1号 第3号 	p.153, 154, 158～167 p.146～167
2部1章 身近にあるさまざまな地図	<ul style="list-style-type: none"> ●GISやGPS、リモートセンシングなどの技術について、実社会での具体的な活用例とともに学習できるようにした。また、リモートセンシングの技術を用いた例をクローズアップコラムで紹介した。第1号 	p.172～175
2部2章 日本の自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の自然災害の特色と自然災害とのかかわりについて、具体的な地域事例を取りあげることによって、早くから自然災害への対応に取り組んできたこと、同じ災害に対しても地域によって対策が異なることなどが理解できるようにした。第1号 ●災害時に公助・共助・自助の取り組みが大切であることを、本文やコラム、写真などで丁寧に説明し、災害の被害を軽減するために協力し合うことの重要性が理解できるようにした。第3号 	p.178～197 p.196～197
2部3章 身近な地域の課題と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> ●地域調査の方法や手順、まとめ方を具体的に示し、身近な地域の調査に活用できるように配慮した。第1号 ●探究や発表においては、思考力・判断力・表現力を育成するために、自分の解釈を加えて討論する言語活動を示した。第2号 	p.198～205

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. すべての生徒に読みやすい教科書

- ①全体のデザインや、グラフ・地図などの資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うように配慮した。極力模様などを入れず、配色のみで色が区別できるようにしたほか、図表の線を従来よりも太くするなどの工夫を行った。
- ②本文や側注、キャプションなどの文字については、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用した。

2. 環境に優しい素材と堅牢な造本

- ①紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用した。一方で、写真がきれいに見えるよう、白くて裏うつりの少ないものを使用した。
- ②インキには環境に優しいベジタブルインキを使用した。
- ③使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27 - 201	高等学校	地理歴史科	地理 A	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地A - 308	高等学校 新地理 A 代表著作者 荒井良雄 ほか 8名		

1 編修上特に意を用いた点や特色

世界各地の生活・文化の特色や、現代世界が抱える諸課題が理解できる教科書

本書では、現代世界が抱える課題や、諸地域の動向とその背景について、詳しく考察した。また、世界と日本のかかわりを意識し、国際社会に主体的に参画する態度を養うことができるように編修した。

本書の特色

- ① 世界各地の生活・文化の特色とその背景が理解できる教科書
- ② グローバル化による世界の結びつきの現状と変化が理解できる教科書
- ③ 世界各地と日本のかかわりがみえる教科書
- ④ 現代世界が抱える諸課題について具体事例から考察できる教科書
- ⑤ 日本のさまざまな自然災害と防災への取り組みを具体事例から考察できる教科書
- ⑥ 地理的見方・考え方や地理的技能が身につく教科書
- ⑦ 自学自習に適した教科書

特色 1 世界各地の生活・文化の特色とその背景が理解できる教科書

1 世界各地の生活・文化にどのような背景があるのかが読み取れる記述

・「1部3章 世界の諸地域の生活・文化」では11地域の事例を取りあげた。各事例では、地域の地形や気候、現在の地域をつくりあげてきた歴史的背景などをはじめに記述し、諸地域の特色ある生活・文化がどのように形成されてきたのかを、自然環境・社会環境の両面から捉えられるように配慮した。そのうえで、産業や貿易、結びつきなどを取りあげ、現在の地域の構造や特色がより理解できるようにした。

○ p.133「ラテンアメリカの自然環境」、p.134～135「混血社会と多様な文化」 など

・「1部2章1節 人々の生活と地形」と「1部2章2節 人々の生活と気候」では、地形や気候について、成り立ちやしきみを取りあげるだけでなく、人々の生活とのかかわりも丁寧に記述した。例えば、気候については、「熱帯の気候と人々の生活」、「乾燥帯の気候と人々の生活」などの項目を取りあげ、各気候帯の特徴とそこで暮らす人々の生活とのかかわりを重点的に描いた。

○ p.30～37「人々の生活と地形」、p.42～53「人々の生活と気候」

2 世界各地の生活・文化の特色が読み取れる写真や図表などの資料

・「1部3章 世界の諸地域の生活・文化」では、各地でみられる生活・文化の特色が、その背景とともに理解できるように写真・図表などの資料を工夫した。

○ p.134 ①「リオデジャネイロのカーニバル」、p.135 ④「ラテンアメリカのおもな言語と人種・民族」 など

3 人々の多様な生活・文化が読み取れる「現地レポート」と「ところ変われば」

・学習内容に関連した各地のようすや事例を紹介する「現地レポート」を、さまざまな単元の導入資料として掲載した。このコラムから学習を始めることで、実感を伴いながら各単元の学習内容が理解できるようにした。その際、人々の営みがよく見える写真や、現地を訪れているような臨場感のある記述を通して、各地の人々の生き生きとした姿が読み取れるよう配慮した。

○ p.94 「ムスリムが集まる聖地メッカ」(現地レポート) など

・「1部3章 世界の諸地域の生活・文化」では、日本でみられる生活・文化や風習とは異なる、世界の諸地域のさまざまな異文化を紹介する「ところ変われば」を各所に掲載した。

○ p.97 「イスラームの暦」(ところ変われば) など

特色2 グローバル化による世界の結びつきの現状と変化が理解できる教科書

1 世界各地の最新情勢を捉えることができる記述

・「1部1章2節 グローバル化が進む世界」では、はじめにグローバル化が進んでいる背景について丁寧に記述し、ASEANやNAFTAなどを例に、現代世界において国・地域がどのように結びついているかが理解できるよう配慮した。また、貿易による結びつきの現状と変化を理解するために欠かせない、自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)などについても、両者の違いや協定を結ぶことによる影響を丁寧に記述した。

○ p.18～29 「グローバル化が進む世界」

・「1部3章 世界の諸地域の生活・文化」においても、グローバル化に伴う各地の経済や産業、文化の変化について、最新の動向を本文に反映した。また、本文の学習内容に関連したテーマや、地域の新しい話題をコラム「クローズアップ」で取りあげた。

○ p.84～85 「東南アジアの経済発展と生活の変化」(本文), p.111 「EUが取り組む食品の品質認証制度」(クローズアップ) など

2 世界各地の「今」がわかる写真や図表などの資料

・変化が著しい現代世界の「今」を的確に捉えられるように、写真・図表ともに可能な限り最新のものを掲載した。

○ p.57 ④ 「バングラデシュの衣料品工場」, p.84 ② 「ASEAN諸国の1人あたりGDPと経済成長」, p.129 ⑤ 「森林を切り開いてつくられた露天掘りのオイルサンド採掘場」 など

特色3 世界各地と日本のかかわりがみえる教科書

1 世界のさまざまな地域と日本のかかわりがみえる「日本とのかかわり」

・「1部3章 世界の諸地域の生活・文化」では、コラム「日本とのかかわり」を各所に設け、世界のさまざまな地域が日本とどのように結びついているかが捉えられるよう工夫した。各コラムでは、貿易や文化などを切り口にして物や人の交流を紹介し、各地域と日本との関係についても端的に記述した。

○ p.65 「日本の食を支える中国の野菜」, p.69 「緊密さを増す中国と日本の経済関係」, p.75 「経済連携と相互交流を深める韓国と日本」, p.81 「日本市場向けのバナナ栽培がさかんなフィリピン」, p.85 「経済連携を深めるASEAN諸国と日本」, p.91 「南アジア市場に進出する日本企業」, p.97 「石油と技術で結びついた中東諸国と日本」, p.103 「支え合うアフリカと日本」, p.115 「企業活動や貿易で強く結びついたEUと日本」, p.121 「結びつきを強める資源大国ロシアと日本」, p.131 「文化・経済・政治で強く結びついたアメリカ合衆国と日本」, p.135 「ラテンアメリカの日系人」, p.137 「日本が協力したセラードの農業開発」, p.143 「人的交流が深まるオーストラリアと日本」, p.145 「安全な肉牛生産の取り組み」

特色 4 現代世界が抱える諸課題について具体事例から考察できる教科書

1 地球的視野から諸課題を考察できる内容構成

- ・環境問題や資源・エネルギー問題などの諸課題について、地球的視野から地理的に考察できるような内容構成にした。それぞれの課題を詳しく学習する前に、さまざまな課題が相互に関連していることを本文や図で表し、その解決には地球規模の取り組みが必要であることを示した。また、それぞれの課題を詳しく学習する際には、はじめに地図などで問題が深刻な地域を示し、分布やかたよりが読み取れるようにした。

○ p.146～147「地球的課題の特性とその解決」、p.150～151「熱帯林の破壊とその解決」 など

2 地域的視野から諸課題を捉えられる具体事例

- ・環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題の五つの分野について、本文やコラムで具体事例を示した。また、地域によって問題の現れ方が異なることから、人口問題と都市・居住問題については、発展途上国と先進国からそれぞれ1地域ずつ具体事例を示した。各事例では、その地域でみられる問題とともに、解決のための取り組みについても紹介し、諸課題の解決に向けての態度を養えるようにした。

○ p.151「東南アジアの熱帯林の開発と保護」(環境問題/本文), p.157「各国のエネルギー問題と取り組み」(資源・エネルギー問題/本文), p.160「インドの人口問題」(人口問題/本文), p.161「デンマークの人口問題」(人口問題/本文), p.162「給食に支えられる子供たち」(食料問題/現地レポート), p.163「日本の食料問題」(食料問題/クローズアップ), p.166「メキシコシティの都市問題」(都市・居住問題/本文), p.167「ロンドンの都市問題」(都市・居住問題/本文)

特色 5 日本のさまざまな自然災害と防災への取り組みを具体事例から考察できる教科書

1 さまざまな自然災害と防災への取り組みを示した具体事例

- ・「2部2章 日本の自然災害と防災」では、日本で起こりやすいさまざまな自然災害について学習したあとに、それぞれの自然災害によってどのような被害が起こるのか、またその対応としてどのような防災の取り組みが行われているのかを、具体事例を通して学習できるようにした。各事例では、現地取材によって得た情報を写真・図表、本文や「現地レポート」で表現し、実感を伴いながら防災意識を高められるよう配慮した。

○ p.180「地震被害と防災」、p.182～183「東北地方太平洋沖地震による津波被害と防災の取り組み」、p.188「桜島ともに生きる鹿児島の人々の降灰対策」、p.195「雪による災害とその対策」 など

- ・具体事例では近年発生した自然災害も取りあげ、災害を完全に防ぐことは難しく、軽減するための努力が続けられていることが理解できるよう配慮した。例えば、土砂災害については、2014年8月に発生した広島市の災害を事例にして、被害が拡大した背景を丁寧に記述し、被害状況を写真や地図で示した。防災の取り組みについては、法律の整備や砂防ダムの建設といった対策が必要であることを、災害の発生に備えてさまざまな情報を入手して活用することが重要であることを示し、防災意識を高められるよう配慮した。

○ p.194「広島市で発生した土砂災害と今後の防災」

2 東北地方太平洋沖地震をきっかけとした災害への備えの変化が読み取れる内容構成

- ・「2部2章 日本の自然災害と防災」のわりには、2011年の東北地方太平洋沖地震以降、自治体や企業による防災対策が進み、災害が発生したときの被災地支援のしくみが整えられていることを示した。とくに、公助・共助・自助の取り組みが大切であることを丁寧に記述し、日ごろから災害に備えておくことの重要性が理解できるよう配慮した。

○ p.196～197「災害に備える」

3 防災意識を高めるための地理的技能

- ・災害により被害を受けた地域の地形図や災害の発生が予想される地域のハザードマップを「技能をみがく」で取りあげ、地域による被害の違いや、身近な地域で起こりやすい災害について考察できるよう配慮した。
 - p.183「津波被害を地形図でとらえる」、p.189「ハザードマップの見方」、p.193「災害の危険度を新旧比較でとらえる」

特色 6 地理の見方・考え方や地理的技能が身につく教科書

1 地理の見方・考え方が身につくページ構成

- ・各単元のタイトル横の側注欄には、「リード」を設け、その単元の学習課題や考える視点を明確に示した。
- ・各単元のおわりには、「チェック」を設け、生徒が学習の要点を確認できるようにした。「チェック」は、学習内容を確認する作業や、自分の言葉で学習内容について説明する作業などで構成し、思考力・判断力・表現力を育成できるよう配慮した。
- ・各ページに掲載した写真・図表は、地理的・地域的特色や分布の傾向を読み取るなどの地理的技能を養うことができるよう工夫した。

2 地理的技能が身につく「技能をみがく」

- ・各単元の内容に応じて、地理学習に必要な技能を身につけるための「技能をみがく」を全 19 か所設けた。とくに地形図や統計地図、グラフの読図や作図などの活動を充実させた。また、グラフや地形図の読み解きの設問「作業」を各所に設け、生徒が主体的に学習できるよう配慮した。
 - p.15「統計資料のグラフ化」、p.40～41「地形図からみた地形」、p.45「写真の読み取り方」など
- ・「2部1章 身近にあるさまざまな地図」では、従来の紙の地図のほかに、デジタル表現の地図が増えていることを紹介し、「技能をみがく」で GIS や電子国土基本図、電子地形図 25000 の特徴とその利活用方法について理解できるよう丁寧に説明した。
 - p.174「身近な GPS や GIS の活用」、p.175「電子国土基本図の利用方法」、p.177「電子地形図 25000 の利用方法」
- ・「2部3章 身近な地域の課題と地域調査」では、「技能をみがく」で調査・発表のための技能を取りあげた。
 - p.200「新旧の地形図の比較」、p.205「プレゼンテーションソフトを活用した発表」

特色 7 自学自習に適した教科書

1 教科書の活用度を高める工夫

- ・本書の扉に、教科書の使い方を解説した「本書の見開き構成」を設け、学習を始める前に、教科書のさまざまなコーナーやコラムの役割がわかるよう配慮した。
- ・本文中の用語でとくに補足説明が必要なものについては、側注で丁寧に説明した。

2 検索性を高める工夫

- ・検索対象の語句が掲載されたページを容易に探し出せるよう、さくいんを充実させた。
- ・本文の行間には、文章・語句に関する見開き内の参照資料の番号を示した。また、他のページと関連する本文中の文章・語句については、行間にその参照先を示した。

2 対照表

学習指導要領の内容	図書の構成・内容	該当箇所	配当時数
(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察	1部 世界の諸地域の姿と地球的課題		55
ア 地球儀や地図からとらえる現代世界	1章 地球儀や地図からとらえる現代世界	p.4～29	10
イ 世界の生活・文化の多様性	2章 人間生活を取り巻く環境	p.30～59	13
ウ 地球的課題の地理的考察	3章 世界の諸地域の生活・文化	p.60～145	26
	4章 地球的課題と私たち	p.146～167	6
(2) 生活圏の諸課題の地理的考察	2部 身近な地域の課題		15
ア 日常生活と結び付いた地図	1章 身近にあるさまざまな地図	p.168～177	3
イ 自然災害と防災	2章 日本の自然環境と防災	p.178～197	8
ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	3章 身近な地域の課題と地域調査	p.198～205	4

計70時間